

金剛寶戒寺便り

六月一日発行 第三号

檀信徒の皆さんこんにちは。吹く風も夏めいてまいりました。今年は昨年よりも早く夏物の衣に着替えてお参りに伺っております。

先月五月六日（旧四月八日）のお花まつりには例年以上に多くの方がお参りに来られ、甘茶を持って帰って頂きました。因みに灌仏会では花御堂の中に立っていらっしやるお釈迦様に甘茶をおかけしますが、これはお釈迦さまが御誕生なされた時に竜が天より降りてきて香湯を降らせ産湯に使わせたという伝説に由来されているといわれております。まさに天地より祝福を受けたということでしょうか。さて五月の月参りでご案内いたしました、高野山開創千二百年記念大法会団体参拝ですが、参加人数の確認の為、六月一杯にて募集を一度締め切らせて頂き、定員に満たなかった場合は再度募集をさせて頂こうと思っております。大分県下で二〇〇名程の団参ですの、金剛宝戒寺にも何人の割り当てが許されるか分かりませんが、詳細が分かり次第ほかのお寺様と人数の配分を決めてまいります。この機会に一人でも多くの方に高野山参拝をして頂きたいと思っておりますので楽しみにして頂くください。

今月の六月十五日は何の日だかご存じですか。実は真言宗を開かれた高祖弘法大師空海。お大師様のお誕生日にあたります。お大師様

は宝亀五年（七七四）に讃岐国（香川県）多度群の郡司、佐伯氏の家にお生まれになりました。現在の善通寺が建っている辺りだと言われております。

お大師様は、今から一一八二年前の天長九年（八三二）八月二十二日に「高野山萬燈萬華会」という法会を行ない、その願文の中で次のような誓願（おちかい）を立てられています。

「虚空尽き、衆生尽き、涅槃尽きなば、我が願いも尽きなん」（私はこれから何百年何千年とどんな時も皆に寄り添い続けたい。そのためにもこの高野山に身を留めお国の平和と繁栄のため、また人々の幸せを祈り続けようと思う。）

真言宗ではお大師様は亡くなられたとは決して言いません。奥ノ院に御入定されたと言います。御誓願の通り、今でも私たちが高野山より見守って下さっていますので、今年で一二四〇回目のお誕生日をお大師様は迎えられることとなります。

残念ながら私は高野山での青葉祭には参列したことがないのですが、高野山では町を挙げて、宗祖降誕会（しゅうそごうたんえ）や華やかな花御堂渡御（はなみどうとぎよ）を中心に、様々な催し物が繰り広げられるそうです。花御堂渡御は、稚児行列を先導に青葉娘による散華が行われ、鳴り響く大師音頭に合わせ、日本各地から踊りや太鼓といった

諸団体の方々も加わり、メインストリートをパレードするそうです。当日の飛び入り参加も大歓迎らしいのでご縁のある方は青葉祭に合わせてお参りされるのも良いかもしれせん。

大分では見かけませんが、関西方面に行く和高野山開創一二〇〇年法会のポスターなどは地下鉄の中などでも目にする程です。先代住職が「お四国八十八ヶ所参りにしろ高野山参拝にしても健康と時間と少しの貯えの三つがそろわないと行けないものだ」と言っていたのを思い出します。

若干名ではありますが般若心経の写経の奉納者を募集しております。奉納料として二千円は掛かりますが専用の写経用紙を本山が御用意して、来年の団参の時に持参し高野山に収めさせて頂きます。団参には上がれないけれど記念に形と気持ちを残したいと言う方が居ましたら声を掛けてください。

三十代に入ったころから夜更かしをしても目覚ましが鳴る前に目が覚めるようになってしまいました。桜の咲く頃から梅雨に入るまでが、朝の六時の鐘もお勤めも一年で一番しやすいです。気がつけば六月、今年も残すところ半年となりました。私は年始にいくつか目標を掲げました。そのうちの一つがこの「金剛宝戒寺便り」です。今号より縦書きにしてみました。横書きの方が読みやすいなどのご指摘も頂けるとありがたいです。合掌